

正 誤 表

2017. 11. 08

月日	ページ	箇所	現行 (誤)	訂正
2017. 10. 12	006	6行目の後に	・ ・について適否の評価をします。	・ ・について適否の評価をします。なお、簡易計算ルートの適用範囲は、木造戸建ての住宅です。
2017. 08. 08	007	下枠内 下から2行	※本テキストは、仕様ルートと簡易計算ルートについて、解説しています。詳細計算ルートについては、「設計テキスト<詳細計算ルート>」を参照してください。	※本テキストは、詳細計算ルートについて、解説しています。仕様ルートと簡易計算ルートについては、「設計テキスト<仕様ルートと簡易計算ルート>」を参照してください。
2017. 09. 07	008	下から4行目	各部位 (屋根、天井、外壁、開口部、床、基礎の	各部位 (屋根、天井、外壁、開口部、床、基礎等) の
2017. 09. 07	009	5行目	「外皮平均熱還流率 $U_A$ 」	「外皮平均熱貫流率 $U_A$ 」
2017. 08. 24	010	表6行目	建物形状の評価	建物方位の評価
2017. 08. 01	010	表最下欄 「テキスト解説 ページ」	本テキスト 第1部 本テキスト 第2部 設計テキスト<詳細計算ルート>	設計テキスト<仕様ルート・簡易計算ルート> 設計テキスト<仕様ルート・簡易計算ルート> 本テキスト
2017. 08. 30	068	下から4行目	$A_{ex}$	$A_{in}$
2017. 09. 23	084	表の単層/単板 ガラス	熱線反射ガラス又は熱線吸収ガラス以外	その他
2017. 08. 30	091	床の熱貫流率の 式の数字	0.08	0.083
2017. 08. 30	091	最下行	λ置：置の熱伝導率：0.08 [W/(m・K)]	λ置：置の熱伝導率：0.083 [W/(m・K)]
2017. 09. 07	096	上図の矢印	ずれて、「4.2外皮性能の計算プログラム」を指している	「4.1エネルギー消費性能計算プログラム」を指す
2017. 09. 07	103	吹抜け等 【現行 (誤)】	<p>・平均天井高さが4.2 m以上6.3m 未満の吹抜け等は、1層の仮想床があるものとみなして、その居室または非居室の床面積に加算します。6.3m 以上8.4m 未満の場合は2層分の仮想床があるものとみなして、その居室または非居室の床面積に加算します。</p>	
		吹抜け等 【訂正】	<p>・天井の高さが4.2m 以上の場合、高さ2.1m の部分に仮想床があるものとみなして、居室または非居室の床面積に仮想床の床面積を加えて計算します。天井の高さが6.3m 以上の場合、高さ2.1m および4.2m の部分に仮想床があるものとみなして計算します。以下同様に、天井高さが2.1m 増えるごとに仮想床を設けます。</p>	
2017. 11. 08	128	2行目～4行目	「壁付き式第一種換気設備」または「壁付き式第二種またはダクト式第三種換気設備」の・・・・方法から選択します。	「壁付き式第一種換気設備」または「壁付き式第二種または壁式第三種換気設備」の・・・・方法と同様です。
2017. 10. 05	159	8地域の表 (は) (に) の ガラス、付属部 材、庇、軒等	付属部材 (南±22.5度に設置するものについては、外付けブラインドに限る)、庇、軒等を設けるもの	付属部材 (南±22.5度に設置するものについては、外付けブラインドに限る)、又は庇、軒等を設けるもの
	185			

設計編 / 詳細